

# 渡波の復興と再生を考える 懇談会

2014年6月22日(日)

渡波公民館

主催 石巻・住まい連  
(住まいと復興を考える会連絡協議会)

# 渡波地区の被災状況

## (1) 人的被害

行政区	死者数	行政区	死者数	行政区	死者数
栄田	42	渡波二	2	新沼	1
黄金浜	50	渡波三	15	垂水町	5
浜松町	2	万石町	5	流留	27
伊勢町	22	塩富町	8	沢田	14
長浜町	46	宇田川・後生橋	2	祝田	3
松原町	78	榎壇	9	小竹浜	1
大宮町	44	鹿松	3	渡波(字名不詳)	118
幸町	20	際	1		
渡波一	4	千刈田	4	計	547

# 渡波地区の被災状況

## (2)住宅の被害

流出	全壊	大規模半壊	半壊	計
229棟	158棟	18棟	141棟	546棟

他に、塩富・万石町・長浜海岸付近の地盤沈下と浸水、流域の変化による雨水の集中などが心配される。

被害が甚大なのに、なぜ渡波地区は「面的復興事業」の当てはまらない、いわゆる「白地地区」とされた。市の説明によると「区画整理のされた町だから」ということ、「国のメニューに該当するものがない」ということであった。

# 石巻市の復興事業と渡波

## 渡波の復興に影を落とす問題点

- (1)なぜ渡波は「白地地区」なのか
- (2)なぜ、住民の話し合いが遅れたのか
- (3)街づくりと住民に問いかけられているもの

# 2013年10月より「東部地区復興町づくり計画策定支援事業」が始まる

「意見交換会の概要(渡波)」							
ブロック	該当行政区	会場	日時	人数	会場	日時	人数
渡波南	松原 長浜 大宮 幸	公民館	11月28日	30人	公民館	2月17日	25人
渡波中	渡波町1・2・3丁目 伊勢・浜松 三和				うしお荘	2月19日	20人
榎壇	榎壇	榎壇会館	12月2日	15人	榎壇会館	2月19日	30人
渡波北	塩富町1・2丁目 後生橋・宇田川 万石町	万石集会所	12月3日	30人	うしお荘	2月26日	25人
渡波西	栄田1・2 黄金浜東・南	黄金浜会館	12月26日	25人	黄金浜会館	2月18日	20人
根岸	鹿松 原 際 千刈田				根岸会館	2月21日	20人

延べ200を超える意見が出ました。地元をよく知っている住民ならではの意見だったと思います。これらの意見と他の地区の経験も参考に、住まい連としていくつかの提案をまとめてみました。

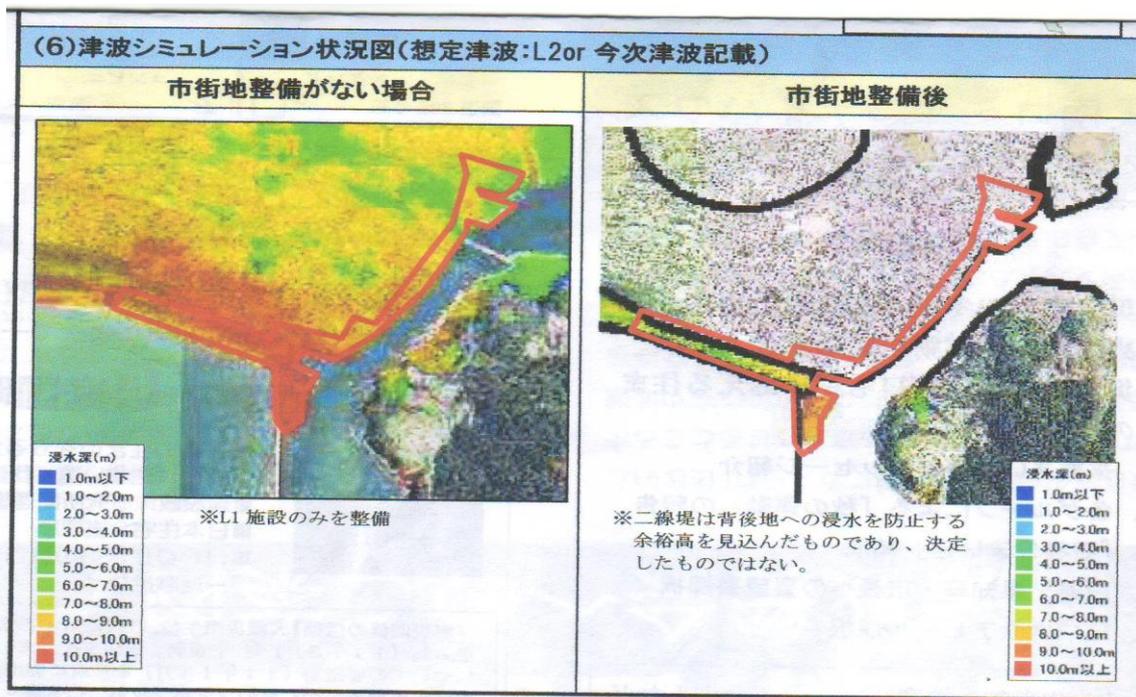
■町内会など地域での話し合いをうながし、被災者の声を反映させ、住民参加の復興とする行政の特段の努力と支援を。

■全国の大学研究室、建築家など専門家などあらゆる方面に支援をもとめ、町内会単位での相談が出来るよう体制をとること。

(2013年3月27日住まい連陳情書より)

(石巻の復興計画・施策大綱 I) 災害に強い町づくり

# 渡波の安全な町づくりはどう進められているか



津波シミュレーションと防潮堤(多重防御)による効果が説明されたのは2014年1月であった。住民代表の文書による質問に対してもまだ回答を寄せていない。

# 「意見交換会」で出された主な意見

- のべ200件以上の意見が出された。貴重な意見であった。
- 震災後初めて復興についての説明を受け意見をもとめられたという、不満と期待の感想が多かった。
- 「行政に対する文句を言うところではない」といわれ違和感を感じる人が多かった。
- それでも、「今後も継続してほしい」、「市は真剣に意見を聞いてほしい」

※こうした意見も踏まえ、住まい連がこの間努力してきた結果も踏まえていくつかの提案をまとめました。

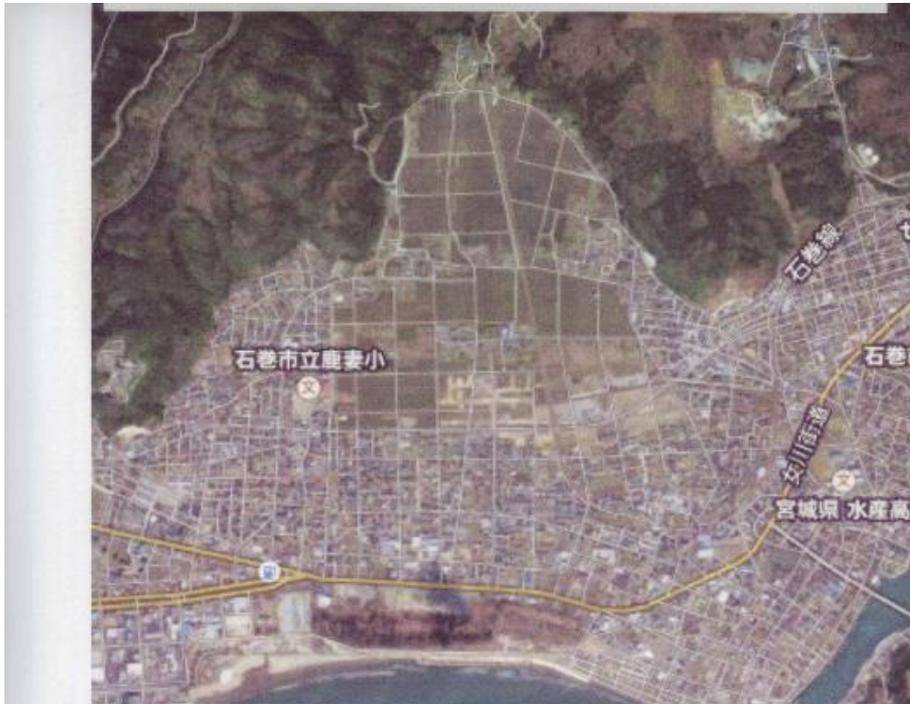
## 提案 1

# 「甚大被災地区」の復興再生事業を

- 長浜海岸・国道沿いは、釜・大街道や南浜・門脇、湊地区と同じような大きな被害を受けている。「多重防御」というが納得のいく説明は住民に説明されていない。住民の不安も大きく「戻れない」という人が半数もいる。
- この地域は「甚大被災地区」として復興・再生の事業を起こすべきである。
  - ①津波からの安全を全住民に対して納得のいく説明を行ない、必要な対策と避難施設、避難路など、不安をなくす具体策を示すこと。
  - ②嵩上げ、共同住宅など自宅再建への支援を行なうこと。
  - ③戻れない人の土地を買い上げ、住民の意見をもとに、地域の復興・再生事業に生かすこと。

## 提案 2

# 根岸地区を「命を守るエリア」として整備を



- 広い駐車スペース
- 避難道路との相乗効果をあげるのアクセス道路などの整備
- 一時避難用の救援物資、救援資材、救援拠点施設（集会所兼用）の整備など

意見交換会では各会場から同様の意見が出された。今回の大事な教訓である。避難道路、避難ビル、避難タワーとともに、安全な場所の確保は必要なことである。行政の防災計画の盲点になっている。

(Ⅱ)市民の不安を解消し、これまでの暮らしを取り戻す

### 提案 3

## 「地域力」を生かした健康と福祉を

渡波地区は人口1万5千に対して開業医が1軒だけ。事実上の「無医地区」である。今後、有床診療所が出来るといいうが、人口流出の大きな要因となっている。市立病院誘致の運動は実現しなかったが、今後の対策が求められている。

- ①市立病院付属診療所の開設を(包括ケアシステムの要)
- ②地域包括ケアのサポートケア拠点を渡波に置くこと。
- ③「地域力」を生かした地域密着型のデイケア施設づくりや、「地区社協」の経験に学ぼう。

※「富山型デーサービス」づくりなどの運動が市内でも広がっている。

(Ⅲ) 自然への畏敬の念を持ち、自然とともに生きる

## 提案 4

# 渡波の自然・歴史資源を見直おそう

石巻は震災で「西高東低」の傾向が強まっている。渡波には他の地区にはない資源を生かした町づくりが可能ではないだろうか。

- ① 万石浦の景観は渡波の文化人が「洞庭湖に比類する風光明媚」と詠い、養殖漁場、近海魚の稚魚の成育の場、アサリかきやハゼ釣りの場として住民に親しまれてきた。
- ② 渡波海水浴場はかつて市民や県外からの客でにぎわったが遠浅の見事な砂浜が消えてしまった。これを取り戻せないか。ヘッドランド事業など国の事業がある。
- ③ 塩田資料、サンファン号などの歴史遺産を生かす。

# 支援事業の今後について

- 事業の目的

石巻市は、沿岸の防潮堤や高盛道路等による多重防御施設により、津波からの防禦をはかることとしている。

石巻市の場合、被災市街地復興推進地域外であっても、浸水深が1.0m以上の津波被害が大きい地域が連担しており、防災面での不安感から同地区で安心して生活再建をすることが困難になっていることから、地区の避難計画の検討や地元住民の意識調査などを基にした市民目線での「復興町づくり計画」の策定が急務となっている。

本業務委は、被災時(津波等)の速やかな避難を推進させる避難計画を主軸とし、地域コミュニティを再生・再構築する「復興町づくり計画」の策定支援を目的とする。